

受験上の合理的配慮の主な対応例

区分	合理的配慮の主な対応例
①視覚障がい	別室受験、拡大鏡（ルーペ）の使用、拡大文字問題冊子の配付など
②聴覚障がい	別室受験、説明者に近いの座席への配慮、補聴器または人工内耳の装用、耳栓・イヤーマフの使用、注意事項の文書による伝達など
③肢体不自由	座席の指定、車いす・松葉杖の使用など
④病弱	別室受験、座席の指定、座布団の使用など
⑤発達障がい	別室受験、試験中の投薬の許可、出入口付近の座席指定、試験室入口までの付添者の同伴など
⑥その他	<p><Ⅰ型糖尿病></p> <ul style="list-style-type: none"> ・別室受験 ・試験中の血糖測定器、インスリンポンプの装着許可、インスリン注射器、インスリンペンの試験中の使用および補食の許可(補食物の机上常備も含む) <p><気管支喘息></p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験中の喘息吸入器の持込み、使用 <p><過敏性腸症候群・過活動膀胱></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出入口付近の座席指定 <p><多汗症></p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験中の手袋の着用、ハンカチの使用許可 <p><吃音症></p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接試験時、面接官は寛容な姿勢で対応